

①今後の課題（文化芸術部会意見）

【テーマ（１） 板橋らしい文化芸術】

- ・文化芸術は活動そのものが区民の生きがいであり、生活の一部である。したがってその成果がまちの活性化に繋がるものと捉えていくことが重要である。
- ・多様な文化芸術活動がある中で、すべての人が自由に活動できる環境を提供する必要がある。そのために各活動を把握し、共有し、支援が必要。
- ・教育、福祉、観光などの関係分野と連携することが必要。
- ・文化芸術活動や鑑賞ができない人の実態を把握し、誰もが参加しやすい環境を整えることで全体の参加者を増やすことが必要。
- ・文化芸術振興ではキュレーション（展覧会の企画・構成・運営など）が重要。区職員だけでなく、専門分野の識者に意見をもらうことも必要。
- ・区立美術館における地域芸術家支援が必要。
- ・区内 18 地域センターごとに行われているイベントや町内ごとの「まつり」や年中行事等を見守ることも大切である。
- ・伝統工芸は後継者不足による継承問題がある。区では伝統工芸を教育の一環として学ぶが、継承に繋がる発展がない。伝統工芸を価値あるものとして展開し、板橋区のブランド化に繋げ、若者が伝統工芸への関心を持つきっかけづくりをすることが必要。
- ・「絵本のまち」など、子どもが活躍できるテーマを活かし、子どもが主体的に区に関わり、実感が得られる機会とすることが必要。また「絵本のまち」は、絵本を軸にしたどのような展開を目指すのか示していくことが必要。
- ・区内に点在する魅力を、横断的につなげる必要がある。例えば美術館展示に並行して、その他区内施設でも各所イベントを開催し、区全体での展開が必要。またそれらをバラけさせずに、まとめるキュレーター（展覧会の企画・構成・運営などをつかさどる）の役割を区が担う仕組みが構築できるよい。

【テーマ（２） 文化芸術の活動の場】

- ・文化芸術活動の場として、区の文化芸術拠点である文化会館をどのようにしていくか具体的な検討が必要。
- ・文化会館は老朽化が進み、音漏れによる利用制限もあり、利用率の減少という課題も抱えている。施設改善を行い、安心・安全に利用できる環境にすることで、活動の場や鑑賞機会の拡大につながり、利用者の増大も見込める。
- ・新たな文化芸術活動の場の創出が必要である。既存の文化施設に限らず、公的空間や屋外施設などを活用することで、区内芸術家の活動の場を増やしていくのはどうか。さらに、地域の特性を生かし、それぞれに小規模なホールなどを整備することで、コロナウィルス感染症により大規模イベントが開催できないような場合でも、柔軟な文化芸術活動の実施が可能になり、同時に地域に根付く文化の創出にもつながる。
- ・区民主体の文化芸術活動機会を創出するためには、活動できる場所や施設の認知度向上が求められる。民間の力を活用するなど、周知の方法を検討していくべき。
- ・文化施設の空室について、状況に応じて低価格で提供することで、活動の場の提供、空室解消、地域の身近なイベント開催など各方面への利益となる取り組みができるのではないかな。

【テーマ（３） 文化芸術にかかる情操教育】

- ・文化芸術は心を豊かにするもので、情操教育として鑑賞の場、体験の場の充実が求められる。既存の取り組みだけでなく、コロナ渦なども踏まえた新たな場の創造も必要。
- ・文化芸術振興の方法として、学校教育に盛り込むことが効果的だと考える。アーティストがアウトリーチ事業（出前講座）、子どもたちの教育に関与していく取り組みを自ら考えていくことも必要であり、また実施するにあたっては区や学校が支援できる仕組みや環境整備が必要。
- ・子どもと文化芸術の結び付けとして、美術展示や演目披露だけでなく、ワークショップや参加型イベントを連携して行うことで、子供たちが興味や関心を持つきっかけとなるのではないかな。

【テーマ（４） 障がい者の文化芸術推進】

- ・障がい者と文化芸術の接点をどのようにつくるかが課題。接点のきっかけとして、障がい者視点で「仕組み」「情報提供」「アドバイス」が重要。例えば、専門的知識や経験を有するアーティストの紹介や、バリアフリー対応の貸施設、補助制度などを一体的に案内することで、「やってみよう」と思えるところまでサポートできるとよいのではないかな。
- ・区が実施している事業については、障がい者及び支援団体を交えて検討すべき。
- ・障がい者に対応する事業実施をする上で、集客からイベントの開催まで、実務的な知識や経験が重要になってくる。そうした知識や経験を伝える講座などが必要ではないかな。
- ・「文化芸術の障壁をなくす」という発想で、誰もが参加できる芸術活動の取り組みも必要。
- ・文化芸術への関わり方は多様であってもよいので、どう関わっていくかという視点も必要。
- ・障がい者の文化芸術推進については、区としての方針や考え方を示した上で、区民が理解して、一体的に取り組むことが必要。
- ・文化施設のバリアフリー化を推進していく必要がある。点字案内やエレベーターのスペース拡張などハード・ソフト両面から施設改善により、障がいの有無や年齢、性別に関わらず、誰もが文化芸術活動を行える環境を整備していくべきである。
また公演のバリアフリー化の推進も必要。方法としては、視覚障がい者に対応した音声ガイドなどを付帯設備とすることで、各団体が利用できる環境をつくることで、バリアフリー非対応公演がバリアフリー対応の公演になるきっかけとなるのではないかな。
- ・障害者における文化芸術推進の論点だけ追求することでの難しさがある。そうしたときに「文化会館」という全員が共通認識することができ、文化芸術を発信する場として、バリアフリー等を積極的に取り組みことで文化芸術振興、共生推進として重要な建物になるのではないかな。
- ・多くの人が参加しやすい環境が必要であり、例えば、文化芸術活動に関する点字の情報案内や、PDF ファイルの音声読み上げ対応など、そうした取り組みにより、多くの人が参加できるようになる。
- ・障がい者による文化芸術等を小中学校などアウトリーチ事業（出前講座）として行うで、子どもたちと障がい者の相互理解のきっかけとなり、文化芸術活動の場の提供にも繋がる。

②2025 年のあるべき姿の検討 ①今後の課題を踏まえた、2025 年のあるべき姿の案です。

- ・イタリア・ポローニャ市との絵本文化交流や、歴史ある伝統文化など、地域個性を活かした魅力発信により、区民をはじめとする多くの人に親しまれています。
- ・地域ごとで行われるまつりなどが、区民主体で活発に行われ、地域文化が根づく環境が整っています。
- ・文化芸術活動は区民の生きがいであり、生活の一部であることから、区民の身近に文化芸術との接点を生み出しています。
- ・海外から寄贈される絵本は、区の独自性を創出するとともに、子どもをはじめとする誰もが親しめる文化芸術として浸透しています。
- ・地域に点在する魅力を繋ぐことで、新しい創造や価値が生まれています。
- ・海外文化と日本文化の融合により、新たな創造や、相互理解が促進されています。
- ・区民にとって身近な環境や、空間で文化芸術に触れる機会が提供されています。
- ・日常的に活動できる環境を整えることにより、区民が主体的に文化芸術活動を楽しんでいます。
- ・文化芸術活動の発表の場の充実が、活動者のやりがいや、鑑賞の機会の充実に繋がっています。
- ・伝統文化を保存するとともに創造を加えることで、新たな価値の発掘をしています。また、創造活動を通じて、伝統的な文化の価値に気づくきっかけになっています。

- ・区の伝統文化や文化財が、区民にとって身近に親しまれることで継承され、発展をしています。
- ・学校教育を通じて、伝統文化や文化財が子どもたちに浸透し、継承や地域への愛着につながっています。
- ・地域個性である伝統文化や文化財を区民が知り、触れることでその素晴らしさや魅力を体感し、誇りを感じています。
- ・すべての人が主体的に、自由に活動できる機会や環境が整っています。
- ・文化会館を中心とした文化施設の設備・サービスの充実、ユニバーサルデザインの推進により、文化芸術への参加及び鑑賞の機会が拡大しています。
- ・子どもたちが文化芸術を通して、豊かな想像力を育んでいます。
- ・文化芸術は心を豊かにするものとして、鑑賞の場、体験の場が充実しています。
- ・誰もが親しめる「絵本」を推進することで、子どもたちが主体的に板橋区との関わりを持っています。
- ・交流の「場」とつくることで、新たな発信や発想の「場」が形成されています。
- ・年齢や性別、障がいの有無を問わず、文化芸術を通じた交流が生まれています。

③施策の方向性の検討 ②2025 年のあるべき姿を踏まえた、施策の方向性の案です。

- ・区内に点在する魅力をつなぐ、分野横断的に取り組みを推進する。
- ・地域特性を活かした文化芸術を振興する。
- ・区内の文化芸術資産の魅せ方によりブランド化に繋げる。
- ・板橋区出身、ゆかりのあるアーティストを支援する。
- ・区民主体の文化芸術活動や発表の機会を創出し、誰もが参加しやすい環境を整える。
- ・文化芸術へいざなう機会と、発表の機会の充実を図る。
- ・多様な文化芸術活動を支える財政支援を図る。
- ・アウトリーチ事業などを活用し、地域及び福祉的課題に取り組む。
- ・伝統文化の魅力と、次代を担う人材の関心をつなぐ取り組みを推進する。
- ・伝統文化や文化財の歴史的、美術的価値の発掘を推進する。
- ・伝統文化や文化財の学習機会を充実させる。
- ・伝統文化や文化財への支援を充実させる。

- ・伝統文化や文化財の講座の拡充をする。
- ・郷土資料館と公文書館を中心とした、伝統文化や文化財の保存及び公開を推進する。
- ・活動や鑑賞ができない人の実態を把握し、誰もが参加しやすい環境を整える。
- ・誰もが利用しやすい文化施設の環境を整える。
- ・文化施設以外の公的空間や屋外施設の活用を推進する。
- ・文化会館の集客力を活かし、文化芸術情報の発信拠点として推進する。
- ・文化芸術活動の裾野を広げるアウトリーチ事業などを推進する。
- ・区民活動を支える環境整備を推進する。
- ・区民活動や芸術家の支援を充実させる。
- ・情操教育として鑑賞の場、体験の場を充実させる。
- ・アーティストが学校教育で文化芸術を提供できる環境や仕組みを整える。
- ・障がい者が安心して文化芸術に参加するための情報発信を推進する。